

Bチャレ チャレンジ部門 実績報告書

団体名	さきちゃんち運営委員会		作成日	3月 31日
企画名	子どもの多様な生き方を考える上映&座談会			
あなたが考える 文京区の課題	学校に行けない、行かない子どもたちとそこそご家族が、孤立しがちになり、不安を抱えながら一日一日を過ごしている。当事者会などにつながると、もっと早くに参加したかった、知らなかった、という声を聴く。個別なことと捉えがちだが、実は同じ悩みや思いで過ごしているご家庭も多い。そういった皆さんが、必要とした時に、共に考え、話し合ったり、支え合い、子どもの多様な生き方を考える機会や安心して過ごせる場などにつながれるようにしていくことが課題。			
実施期間	2024/10/1～ 2025/2/28	実施場所	ワークスペースさきちゃんち シビックセンター（学習室・アトリエ）	
対象者	文京区に住む、学校に行けない、行かない、行きしぶりがある子どものご家族			
参加者の募集方法	チラシ（文京区教育委員会の後援をいただき、公立小中学校での配布、図書館やb-labなどでの配架）、当事者・保護者団体での口コミ、メールマガジン等で告知し、フォームでの申込みとした。 （なるべく区内の保護者とするために、今回はSNS等オンライン上での不特定多数への告知は積極的に行わなかった）			
実施した事業内容	11月9日 さきちゃんちで関係団体で試写会（候補映画の上映）と座談会を実施 ●それをもとに運営会議を重ねる（おもにオンライン上での意見交換） ・他の候補上映映像を確認、絞り込み ・上映映画の確定後、上映・座談会の広報チラシ作成・印刷 ・匿名でも声を届けることができるフォームを開設 ・LINEのトークルーム「Room-S」を開設（引き続きつながり情報発信できる環境を構築） ●対面での会議（11月9日、11月12日、11月19日、12月7日、1月28日） ●並行して ・社協教育関係団体登録 ・教育委員会の後援依頼申請を進める。			

	<p>12月24日 文京区教育センター訪問、意見交換</p> <p>1月9日 広報チラシを教育委員会を通じて区立小中学校全校に配布</p> <p>2月8日 シビックセンター地下の学習室で上映会と座談会を開催</p> <p>申込者：51名（子ども7名）、来場者47名（子ども6名）参加</p> <p>・同伴のこどもたちが創作活動（パステル画など）に取り組めるワークショップも同時開催（3名参加）</p> <p>上映会参加者45名 座談会参加者22名</p> <p>2月28日時点 LINEのトークルーム「Room-S」登録者22名 協力団体よりイベントや不登校やいきしぶりに関連した情報を1月28日より発信中</p>
事業実施に当たって実際に協力のあった団体・個人	<p>文京区社会福祉協議会、文京区教育委員会、文京区立小中学校校長会</p> <p>自由登校を見守る会 カスミソウ@文京、森のりんごの木</p> <p>むーさん工房 作品の監督</p>

収入内訳 《結果》	品目	金額	備考 (件数、単価などを詳しく記載)
	Bチャレ助成金	200,000	
	団体負担	708	
支出内訳 《結果》	品目	金額	備考 (件数、単価などを詳しく記載)
	チラシデザイン料	28,485	PowerPoint 11,605円 Illustrator 16,880円
	チラシ印刷	38,420	校長会・関係者用 1,850円 学校配布用 36,570円
	当日資料印刷	14,577	当日資料印刷費10,740円 誤植訂正用紙 3,617円+ 220円
	上映資料送料	1,050	宅急便コンパクト620円+ 70円 レターパック430円
	会場費（プロジェクター込み）	3,200	シビックセンター 学習室 3,200円
	講師謝礼	10,000	作品監督 10,000円
	上映料	70,000	「自立への道」 上映料10,000円 「ゆめパのじかん」 試写料10,000円+ 上映料50,000円
	子どものアトリエ （会場費+ 材料費）	34,976	会場費 2,300円、搬送費（駐車料） 2,500円、材料費 26,000円+ 1,558 円+ 1,645円+ 973円
助成交付額/ 支出総額		200,000/ 200,708	

企画の成果

1.当初想定していた成果に対して、達成度合いは10点満点中、何点ですか。その理由も含めて記載してください

達成度合い：8点

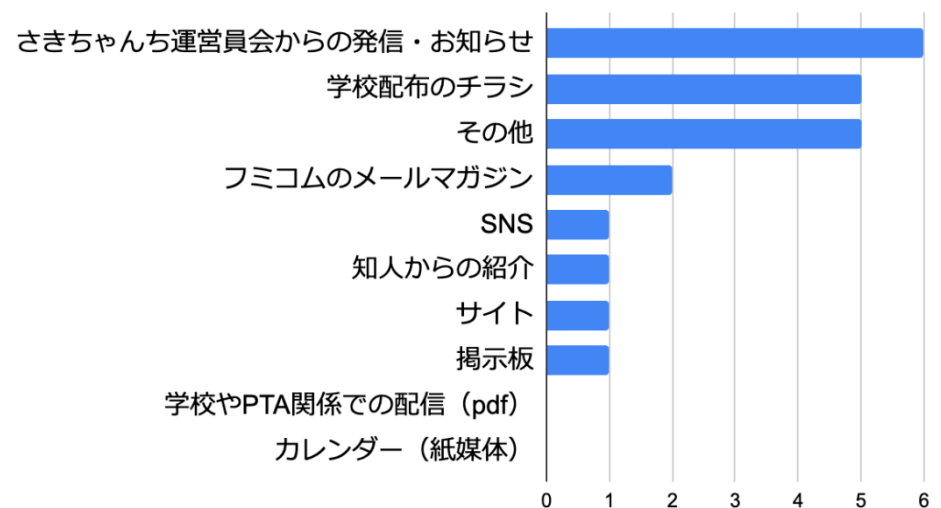
●「興味を持たれるご家庭がどのくらい集まるのか（申込み数）」

→定員60名に対して参加者45名で、定員には達しなかった（75%）。

●「集まるにあたってどのような経路での情報が有効であったか（アンケートやインタビュー）」

→チラシの全校配布を行うことができた。公共施設等への配布・掲示も有効であった。（n= 15）

上映・座談会をどのように知ったか（n=15）



●「どのような情報や、集まり、イベント、場、ケアが必要とされるのか（アンケートやインタビュー）」

→座談会に対する関心があるにもかかわらず、座談会の内容（イメージ）が伝えきれなかったことや、時間配分が参加者数に影響した。ただ、今後もいろいろな形での対話の機会やつながりの場が求められていることを知った。（n= 7）

- 温かいゆるやかな繋がりを広げていきたい。

- 他のドキュメンタリー映像などもオンラインのトークルームで紹介したり、上映会などを開催できるとよい。

- 座談会参加者が想定より少なかったが、映画の時間が長かったことが影響しているのではないかと思った。合わせて2時間くらいがちょうどよいと思った。

- 多くの方に「多様な生き方」に関心を持ってもらえる機会ができるとよい。

- 座談会の時間を更に多く取れるとよい。

- 映画の感想について話すタイミングを設けられるとよかった。

- 当事者の声を聞けるような座談会があるとよい。

- （今回の）座談会の様子や内容が分かったと参加のイメージができるのではないかな。

企画の成果**【その他目的に沿った成果】**

- 「上映会を開き、不登校のご家庭が集まれる機会を創る」ことができた。
- 上映会とその後の座談会を通じて「いろんな事例を知り、同じような状況で悩んでいる方と出あったり、話」ができた。
- 「つながることで、これまでとは違った対応や子どもとの歩み方などに気が付くきっかけになり得る」発言もみられたが、さらにあらたな悩みにもつながる可能性もあると感じた。
- 「広報を工夫し、届けたいところに情報が周知」する点、まだ不十分であると感じている。思うほどに情報を届ける体制が整っていないと感じる場面もあった。ペーパーレスを進めているところもあり、チラシではない広報の活用は必須である。

2.企画を行なってみて気付いたこと、改めて確認できたことを記入してください

【情報の発信、周知】

- 企画の周知にあたってチラシの全校配布を試みたが、配布時期、C4th（シーフォース）の活用などについては学校ごとに対応が異なった。確実に情報を届けることの難しさを改めて感じた。
- 不登校ゆえに学校からの配布物を受け取れないことがある。お子さんが学校に行っていない家庭は月に1度まとめて手紙類をまとめてもらったりしているため、チラシのみではリアルタイムで情報を届けることが難しく、課題となっている。
- 児童生徒向けのふれあい教室や学校における支援の情報の他にも、保護者をサポートする情報（親向けの座談会など）も必要性が高いことを感じた。**

【行きしぶり・不登校の捉え方】

- 企画段階から上映・座談会に至る過程で、「不登校」といっても行きしぶりから学校に行けない状態である方まで、その背景や状況、さらに本人や家族のその状況の捉え方・向き合い方はさまざまであること、をあらためて感じる事ができた。
- 不登校手前の、どうにか登校している行きしぶりのお子さんや保護者へのなんらかのサポートも必要だと感じた。
- 「行きしぶり・不登校」の状況や立場（本人、保護者、支援者）によって映画の捉え方が違った。（よかったと感じた方からネガティブに受け止めた方まで）
- 保護者の悩みや感じ方について、段階があり、その段階に沿った内容でないと、ショックや戸惑いがあるかもしれないということに気が付かされた。
- 親の会などでは母親参加が多い傾向にあるが、今回父親の参加もみられた。今後さらに不登校、行きしぶりや多様な生き方への理解が広まることが望まれる。

企画の成果

【関係者同士で対話を継続すること】

●本企画では地域の親の会や保護者の方々と議論を重ね、運営することができたため、相互にさまざまな問いや気づきを得ることができた。保護者の方の配慮や思いを企画に活かせたことが大きいので、**今後も対象者となる方と一緒に企画を練りあげていくことの重要性を感じた。**

●本企画をとおして、本人や保護者同士（ピア）が話をする（関わる）機会が求められていると感じた。本人や保護者同士だからこそ、現在や今後のことについて、お互いに耳を傾け合っていたと感じられた。

●保護者だけでなく、関わったメンバーも一緒に行きしぶりや不登校についての理解を深めることができた。

【プライバシー等配慮の必要性】

●「当事者」という言葉を使うかについては、内部でも検討を重ねていたが未だ適切な表現を見つけられていない。（ここでは「本人や保護者」と表現する。）自分の名前が受付で出ないようにしてほしい、同じ学校の人がいるのはちょっと、という声があった。そういった配慮の必要性をあらためて確認した。

●支援者側の参加者から「「当事者」の話が聞きたい」という要望があったが、保護者からは同じ状況の保護者同士の中でお話ができる場を求められていたため、安心して参加できる環境を整えることを優先した。

●子どもを連れて、一人で来ても安心して参加できる環境づくりが大切と感じた。（ワークショップ用に別室を用意できたことは空間や時間の余裕を醸成したと感じた）

●「行きしぶり・不登校」の状況や立場によって情報などの捉え方が異なることから、本人や保護者との関わり方や、情報提供・発信方法などについては丁寧に行なっていくことが必要であると強く感じた。

3.本企画の開始時に設定した課題は、実際に“文京区の課題”だったことが確認できましたか

本企画を通してどのように検証を行ったかを記載してください

①「行きしぶり・不登校」に関わる個人や団体との連携

これまでは本人や保護者と行政、関係する個人・団体との「対等な」連携関係は希薄であった。本企画では地域の親の会や保護者の方々と議論を重ね、運営することができ、この過程で文京区社会福祉協議会、文京区の関係機関をはじめ、ドキュメント映像製作者、「行きしぶり・不登校」に関わる団体と交流する機会を持つことができた。このことにより今後の取り組みに活かすことができる関係づくりができたと考える。

企画の成果**②「行きしぶり・不登校」の課題を抱える方が出かけやすい、参加しやすい環境づくり**

「当事者会などにもっと早く参加したかった」「知らなかった」という声が座談会においても聞かれた。地域の親の会や保護者の方々と議論を重ね、運営することにより、安心して参加できる環境づくりについて理解を深めることができ、今後の取り組みに活かすことができると考える。

③「行きしぶり・不登校」の課題を抱える方に情報を届ける方策

今回一番悩んだことは周知方法であった。ある小学校からの問い合わせでPDFデータを送ってから反応があったため、学校からデータで情報を届けるということが有効なのかもしれない。現状では、学校の保護者への周知方法は、各学校の裁量に任せる形になっており、学校に来ていない家族にアプローチできているかまではわからなかった。届かなかったという声もあり、チラシの全校配布という形では情報が一律には届かない状況であることがわかった。

④企画を実施した後の振り返り

上映・座談会の終了後、運営に関わってくださったメンバーで振り返りの時間を設けた。本人の保護者の方々からも、「行きしぶり最初の辛さ、苦しさを思い出した」「こういう形でつながれてよかった」「自分自身が楽しかった」などの感想をいただいた。上映会や座談会後の「振り返り」が参加者・関係者にとっても、そこまで抱えたそれぞれの感情や感覚を共有する、受けとめる意味でも重要と考える。

⑤企画に関する参加者アンケート

上映・座談会終了時に参加者アンケートを実施した。映画もよかったが、その後の座談会で思いや悩みを分かち合え、自分と異なる色々な意見を聴くことができたことがよかったとの感想が多かった。座談会においては「文京区にこのような（つながる）場があることを知らなかった」との声も聴かれた。引き続き「行きしぶり・不登校」はもちろん、情報や気持ちを分かち合える場や機会を設けることが課題であることを確認した。

企画の成果

4. 本企画を経て、今後の団体の活動の展望についてご記入ください

【連携した団体、協力いただいた区や機関との連携】

教育委員会の後援を取ったことにより、学校との連携が取りやすくなることを理想と考えている。今後の学校の状況を見ながら進めていきたい。また、連携した団体、協力いただいた区や社会福祉協議会などとのフラットな連携を進めていきたい。

【「行きしぶり・不登校」の課題を抱える方への呼びかけや情報の共有】

上映・座談会の開催にあわせてLINEのトークルーム「Room-S」を立ち上げ、情報発信できる環境を構築した。現在、情報を少しずつ発信し、あわせてどのような情報を発信するか、発信方法について関係者と一つ一つ確認しながら検証を継続している。このような情報発信や共有を課題を抱える方への呼びかけにもつなげていきたい。

【つながる機会づくり】

上映・座談会開催後の感想やアンケート等においても、「思いや悩みを分かち合え、自分と異なる色々な意見を聴くことができたことがよかった」との感想や「文京区にこのような（つながる）場があることを知らなかった」などといった声が聞かれた。今後も関係機関との連携を継続し、情報の発信・共有のツールを活用し、いろいろな形での対話の機会やつながりの場を設けていきたい。□

※追加別添1：この事業を通じて制作したチラシなどのデータ

※追加別添2：この事業の様子が分かる公開可能な写真データ（10枚以内）

※追加別添3：この事業にかかった費用の根拠資料の原本（領収書や支払い明細書など）

【提出先】

E-mail：fumikomu@bunsyakyo.or.jp

TEL：03-3812-3044（担当：近藤）